

「こちらの御絵伝、涅槃図と申しまして、お釈迦様がなくなりました時のありさまを描いたものです」。私は長野市の善光寺周辺で、「釈迦涅槃図」や「善光寺如来縁起」などの仏教絵図をわかりやすく解説する「絵解き」の復興に20年以上取り組んできた。

江戸時代は一種の娯楽に仏教の伝播とともに中国、朝鮮半島を経て日本に伝わったとされる。中



絵解きをする筆者（長野県諏訪市の法光寺、昨年10月）

た。素晴らしい内容なのに聴衆は2〜3人。「こ

解きの録音を聞いたら、文語調で節がついてとても素晴らしい。そうしたことが重なって主婦業のかたわら絵解きの復興に取り組むことになった。

涅槃図には52種類の動物が描かれるが、ネコがいるものといないものがある。その理由を加えるなど、なるべく興味が持てるよう工夫している。

発声は自己流。「歌でもやっているんですか」と言われるほど声が出るようになり、7〜8年前からは「絵解き口演家」と自分で名乗っている。

5年からは絵解きの調査に各地を巡った。安珍清姫の絵巻を基に絵解きの説法をする和歌山県の道成寺などしかり残っている寺もあるが、絵の前で住職が説教するだけの寺も多く、長野周辺の水準の高さを実感した。

絵図を前に絵解きをしていると、涙を流して聞いて下さる方がいる。最初は皆さんに知ってもらいたいと始めたが、今は後世に引き継ぎたいという使命感が強くなっている。絵の前に立つだけで「大勢が見てきて、人と人をつないできたのだ」と歴史を強く感じる。

さらに広めようと、14年には日本中の善光寺参りの伝説を1枚の絵に描き込んだ「善光寺参り絵解き図」を制作した。源頼朝、水戸黄門、小林一茶、国定忠治、高杉晋作ら有名人名から無名の男女まで100以上の話が込められ、善光寺で毎月、絵解

小林 玲子



仏教画の教え語り継ぐ

◇「絵解き」再興目指し、善光寺周辺で口演◇

しかし善光寺周辺では絵解きの文化が残ってき

た。半僧半俗の善光寺聖という人々が善光寺如来縁起の絵を携えて全国を

その善光寺周辺でも絵解きは忘れられていく。私が出合ったのは1992年。長野市の西蔵寺の縁日に行くと、高輪の住職が絵解きをされてい

た。素晴らしい内容なのに聴衆は2〜3人。「こ

うやってなくなっていくのだ」と寂しく感じた。同じ頃、夫の小林一郎が会長を務める長野郷土史研究会で別のお寺の絵

を作った。例えば当麻曼茶羅は縦2尺、横1尺8寸のもの大きなものだ。

夫と2人で台本作り、台本作りも大変だが、夫が文献を調べてくれて二人三脚でやっている。台所にも面白い物にも台本を持ち歩き一言ずつ暗記する。複製の絵図を持つて公民館などで絵解きをするようになると、本物の絵図を持つ寺からも声

がかかるようになった。

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ

きのかき継ぐ